

PRESS RELEASE

環境問題と住宅

～エンドユーザーへのアンケート調査結果(続報)～

(株)長谷工総合研究所(東京都港区、社長:久田見 卓)では、表題のレポートをまとめました。
レポートの全文は、8月27日発行の「CRI」9月号に掲載いたします。

今年2月に(株)長谷工総合研究所が実施した「住宅と環境」をテーマとしたアンケート調査を4月号にてご報告しましたが、9月号ではその続報をお知らせいたします。

4月号では、2009年に実施した同じテーマのアンケート調査結果との比較をいたしましたが、今回は、「環境意識」、「環境アイテム」について「地域」、「居住する建物」などの属性別の分析結果の他、「環境アイテムの導入費用」および「分譲マンション等共同住宅居住者」の状況について報告いたします。

【環境意識の属性別分析(設問「環境活動への興味関心」について)】

- 地域別:全般に環境意識が高い傾向の地域(千葉県、神奈川県、都下)とそうでない地域(大阪市、名古屋市)に分かれた。また、「防災への意識」で仙台市が非常に肯定的であった。
- 建物属性別:戸建所有で環境意識が高く、共同賃貸で低い傾向にある。
- 世帯年収別:年収の高い層で環境意識が高く、低い層で低い傾向にある。
- 年代別:50代、60代以上で関心が高く、20、30代で低い傾向にある。

【住宅の環境アイテムの属性別分析(設問「導入を検討している環境アイテム」について)】

- 地域別:環境アイテムの導入について「肯定的回答」が多い地域(千葉県、神奈川県)と「否定的回答」が多い地域(大阪市、名古屋市、埼玉県)に分かれた。また、一部の環境アイテム(「ペレットストーブ・薪ストーブ」、「オール電化住宅」、「防災対応用品・備蓄」、「マンション向けの高圧一括受電」)などで地域による違いがみられた。
- 建物属性別:戸建所有で「肯定的回答」が多く、共同賃貸で「否定的回答」が多い傾向にある。
- 世帯年収別:年収の高い層で「肯定的回答」が多い傾向にある。
- 年代別:60代以上で「肯定的回答」が多く、20代で「否定的回答」が多い傾向にある。

【環境アイテムの導入費用】

- 「10万円以下なら導入を検討する」という回答の多いアイテムは「生ゴミ処理機・デスポーザー」(91.1%)、「節水機器」(90.0%)、「防災対応用品・備蓄」(85.2%)、「雨水利用」(80.5%)である。
- また、「太陽光発電システム」、「オール電化住宅」、「エネファーム」などでは「50万円以下」、「100万円以下」でも導入を検討するという回答が全体の5割近くを占めた。また「300万円以下なら導入を検討する」が最も多かったのは「オール電化住宅」、「太陽光発電システム」でそれぞれ6.3%、他アイテムは3%以下であった。

【分譲マンション等共同住宅居住者の状況】

- 「環境アイテム導入への関心」で、分譲マンション等共同住宅居住者の回答を全体と比較すると「肯定的回答」の割合が最も増えたのが「マンション向けの高圧一括受電」(13.7%→22.6%)。同様に「共同所有」で「肯定的回答」が増えたアイテムは「蓄電池」、「節水機器」、「断熱サッシや複層ガラス等」である。

【まとめ】

- 「環境意識」、「環境アイテム」共に重要なのは「コスト」
「環境意識」、「環境アイテム」両方で、高年収層で「肯定的回答」の割合が高かった。また「環境アイテムの導入費用分析」でも「コスト回収が期待できるアイテム」で、より多くのコストをかけてもよいとの傾向が出ており、環境配慮を行うためには「コスト」が重要と考えられる。
- 共同住宅居住者の潜在的な環境取り組みへの意識
今回アンケートで提示した「環境アイテム」は共同住宅では導入が難しいものが多く、共同住宅居住者の意見が反映されにくかったと推察されるが、自由回答から共同住宅居住者の中にも「環境が許せば環境配慮に取り組みたい」という潜在的な意志が読み取れた。

【アンケート調査の概要】

- 調査対象 : 東京23区、東京都下、千葉県、埼玉県、神奈川県、大阪市、名古屋市、仙台市の8地域。左記8都市在住の20歳台から60歳台の戸建住宅居住者と共同住宅居住者(それぞれ持家、賃貸)。調査対象者の抽出に際しては、対象都市の居住者の年齢階層および居住している住宅の種類構成比に配慮した。
- 調査方法 : WEB方式によるアンケート調査 ● 調査期間 : 2014年2月4日～14日(前回は2009年1月9日～14日)
- 回収数 : 5,000件(=625件×8地域。なお前回は3,956件)

